

## ○ 人口ビジョン案に関する御意見や御感想

頁数	パブリックコメントで寄せられた御意見	対応方法、町の考え等
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「近年の移住者が増加…」と説明しているが、国勢調査のタイミング(もう 4 年も経っている…)を把えての分析・評価は妥当なものか？ 総合戦略(案)を策定する以上、可能な限りの直近のデータに基づくべきではないでしょうか。特に平成30年度に成果のあったとする“社会移動増”の効果に対する疑念が提起された、推進会議・村本委員の質問にもあった通り、将来展望人口を上方修正するほどのデータと見るにはやや早計と思料。</li> </ul>	<p>将来推計人口の積算は、基準推計値の他、合計特殊出生率の向上と移住定住施策の推進による一定数の人口確保をその根拠としています。</p> <p>まず、基準推計値については、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を参考にしています。平成 27 年度から今年度までの 5 か年を対象期間とする第 1 期は、平成 22 年国勢調査の男女・年齢別人口を基準に、人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめ計算しています。今年度策定している第 2 期計画は、平成 22 年国勢調査データを平成 27 年国勢調査の確定値に置き換えて再計算をしているものです。</p> <p>合計特殊出生率については、平成 27 年の実績は 1.59 であり、将来推計のために見込んでいる 1.54 とほぼ同じ数値となっております。</p> <p>また 30 歳代の未婚率は上昇しているものの、国立社会保障人口問題研究所の調査では、平成 22 年国勢調査時点よりも、平成 27 年国勢調査時点において、30～40 歳代の出生率実績が上昇しているとの報告もあります。</p> <p>また、移住定住施策については、平成 30 年度に転入超過になる等一定の成果が出ており、今後もますます力を入れて取り組むものです。</p> <p>こうした点から、第 1 期と比較して町を取り巻く環境に大きな変化がないため、第 1 期の方針を引き継ぐこととしています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>図表2「世帯数の減少は少ない」と説明しているが、こうした分析・評価は妥当か？ 世帯のうちの“高齢者単身世帯”数の把握とデータ提供の無いままの分析では、「一気に世帯数が減少するターニングポイントが必ず来る」と懸念する。</li> </ul>	<p>このグラフでは、人口の減少と世帯数の減少を比較した場合に、世帯数の方が減少率が少ないという事実を指摘するため掲載しています。</p> <p>なお、高齢者単身世帯数の変化は、東栄町地域包括ケア推進計画（第 8 期高齢者福祉計画）でも把握しており、認識しております。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>図表3・4「高齢人口5割…」に関して、“肩車型”の社会が全国に先駆けて現実になっていること の“危機感”を訴求する姿勢が無いように感じられる しかも、支える側の世代の所得は県下“最下位”という現状…</li> </ul>	<p>ご意見の状況を踏まえた上で、地域に起きている変化を基に今後の町の方向性を考えた内容としています。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>図表9「地域内経済循環の状況」について、「地域外から稼いだその他所得(補助金等)は地域外へ支出…」との説明があるが、町外への流出をもう少し具体的に説明すべきではないか？ →公共工事・設計等の域外事業者への発注、買い物行動の町外移動等(?) 所得についても、町外から(補助金・交付金を含む)給与所得等を持ち帰っている状況についても言及されたい。 →通勤手当補助施策の評価にも絡がる分析資料になるはずですが、 図表の作成を町自ら、体力・カネをかけてやる必要はないと思料しますが、「2013年」の基準では相当陳腐な統計とも言えます…</li> </ul>	<p>説明を追加します。(第 2 期人口ビジョン図表 11、7 ページ)</p> <p>なお、図表等については、現状分析につながるため、町自らが作成することが必要だと認識しています。</p>
8、9	<ul style="list-style-type: none"> <li>図表14「入学前児童の転入が発生…」と説明しているが、一方で図表15「小学校・中学校1学年の平均児童、生徒数の推移」に係る、「児童・生徒の途中転出」といった懸念を分析しておく必要を覚えます。 「せめて高校入学までは東栄町の町民として」の人口貢献を期待するのは酷なのではないでしょうか？</li> </ul>	<p>年齢構成ごとの増減は把握しています。</p>

9	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三遠南信・東栄 IC」開通に伴う「来客数の増加・客層の変化を感じる・・・」と説明しているが、“感じる”とは如何なデータ把握か？(アンケートとかは？) 事務局にデータ収集を期待しすぎることでの事務負担は回避すべき(前項と同じ)と考えるものの、「道の駅」等の事業化の前には通行量調査等は必要な統計データと思料します。</li> </ul>	<p>町内事業者への聞き取りから得られた情報を記載しております。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>図表17「令和7年度まで・・・」と、添付図表のうち、唯一将来年度まで表示しているにも拘らず、また“令和”で説明しているにも拘らず、横軸の年度表示は“平成”のままになっている。 議論の本質には影響ないものですが、姿勢として速やかな補正を期待します。 「施設・設備の更新」に係る議論は、「東栄町公共施設管理計画」での議論に委ねるとされつつも、そこで議論や方向づけといった包括的な論点把握をしておくべきものと思料します。 特に、施設・設備を生活基盤・インフラと捉えれば、“上下水道”“道路”こそ最優先(東栄医療センター無床化・透析問題よりも・・・これは私見！)課題と考えます。 本件に係る“まちづくり”の視点は、人口減・財政負担・(一旦造ったら40年以上のメンテナンスコストも勘案して)耐用年数は今般の戦略時限；令和6年度・2024年度を遥かに超える・・・ことを十二分に踏まえるべきでしょう。 “コンパクトタウン”ではなく如何に「ダウンサイジング」するか！</li> </ul>	<p>図表17は、平成28年度に策定した公共施設管理計画の中で、公共施設の維持管理負担が重要課題である点を踏まえ作成されたものを抜粋し掲載しています。 なお、令和2年度中に個別計画の策定を行います。その際には、この人口ビジョンの指標や、総合戦略の柱である住民主体と地域経営資源の管理等の考え方に沿って進めます。</p>